

すっくと おともだち



けんちゃん

まこちゃん

ひろくんの

「ずっとおともだち」

はじまりはじまり

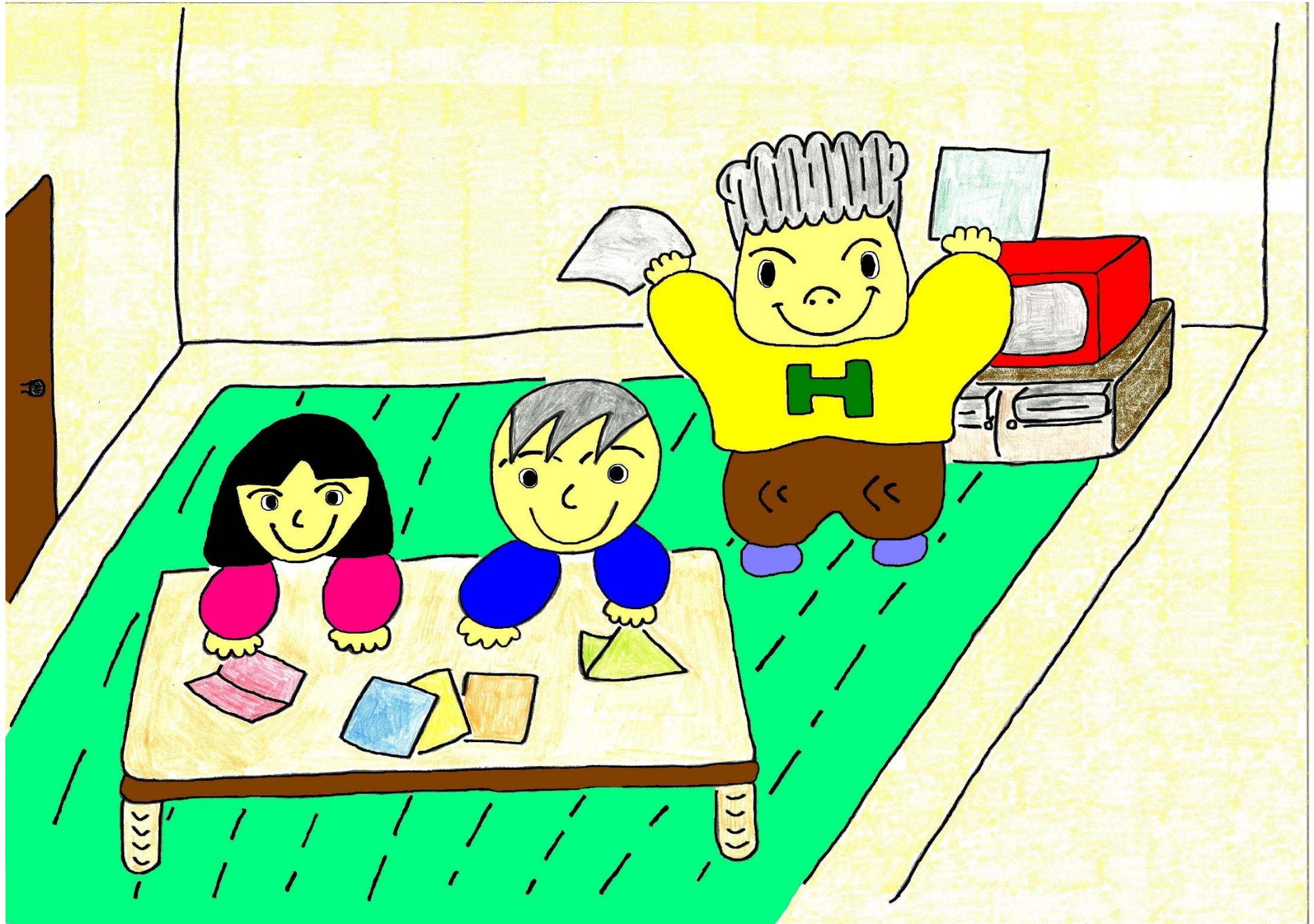
けんちゃん、まこちゃん、

ひろくんの三人はとっ

ても仲良し。

いつも一緒に遊んでい

ます。



今日は、ひろくんのおうちで  
折り紙をすることになりました。  
三人「折り紙折り紙楽しいな。  
今日はなにを作ろうかな♪」  
けん「楽しいな〜楽しいな〜  
なにをつくらうかな〜」  
ひろ「ぼくも沢山作っちゃうぞ  
と」  
三人は折り紙を楽しんでいます。



まこちゃんは、とつても  
きれいな鶴をたくさん作  
りました。

けんちゃんはとつても  
かっこいい手裏剣をつく  
りました。

だけど、ひろくんは、な  
かなか上手に折り紙を作  
ることができません。

そのうち、ひろくんは、  
だんだん機嫌が悪くなっ  
てきました。



ひろ「え〜いいえ〜いい。もうやめたやめた。折り紙なんてつまらないよ〜だ。

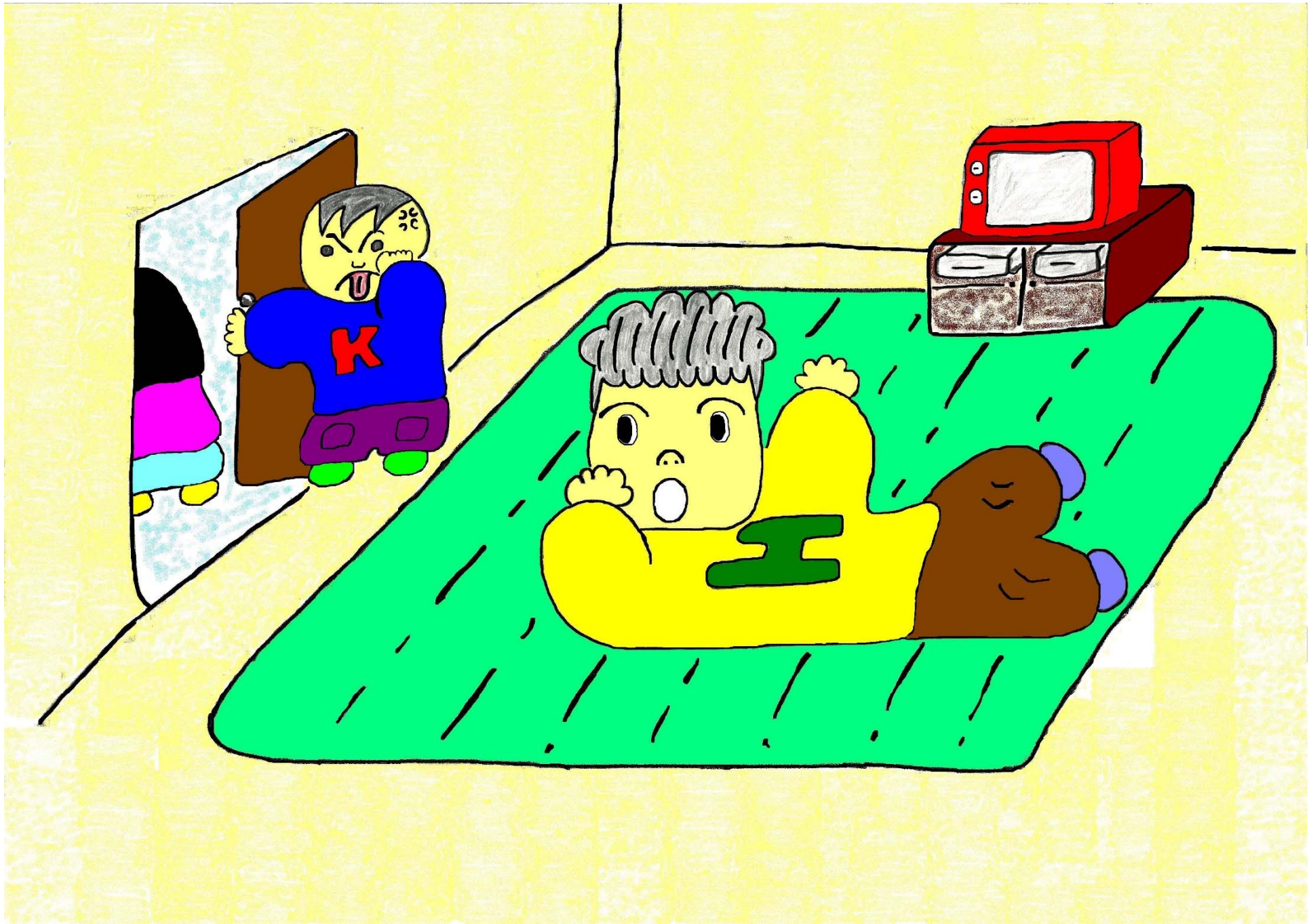
折り紙なんて捨てちやえ〜。」  
おこつたひろくんは、けんちゃんともまこちゃんが作った折り紙も取り上げて、「ゴミ箱にすててしまいました。」

けん「なにするんだよー！ひろくん！ぼくたちの作った折り紙を捨てないでよ〜」

ひろ「ちや〜だよー！え〜いい！捨てちやえ〜。」

けん「わ〜！ー！やめてー！やめてよー！」

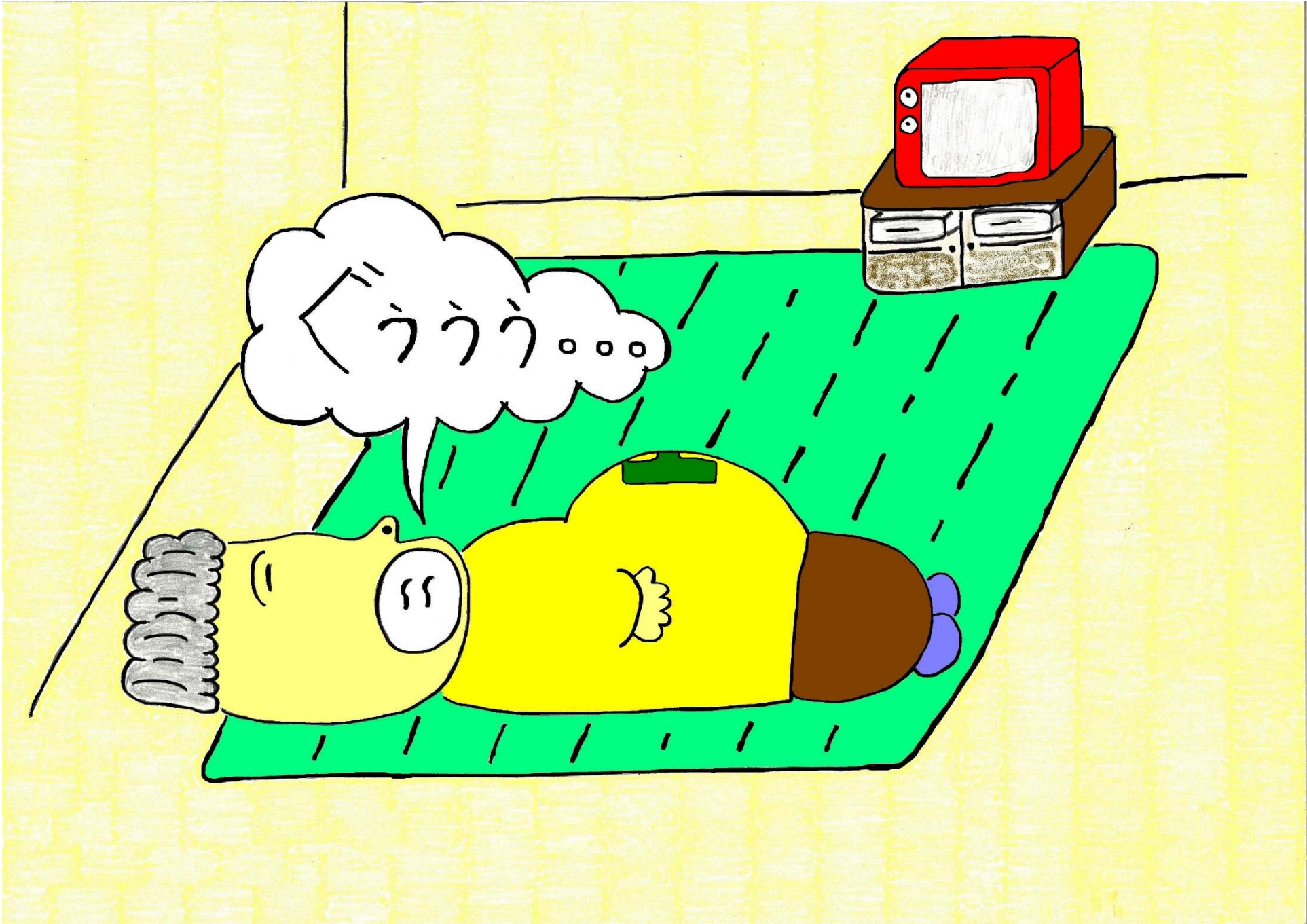




けんちゃんとまこちゃんは  
とつてもかんかん！！

けん「なにするんだよ！ひ  
ろくん！もうひろくんなん  
かと遊ばないよ！まこちゃ  
んもう帰ろうよ！ あるか  
んべくだ」

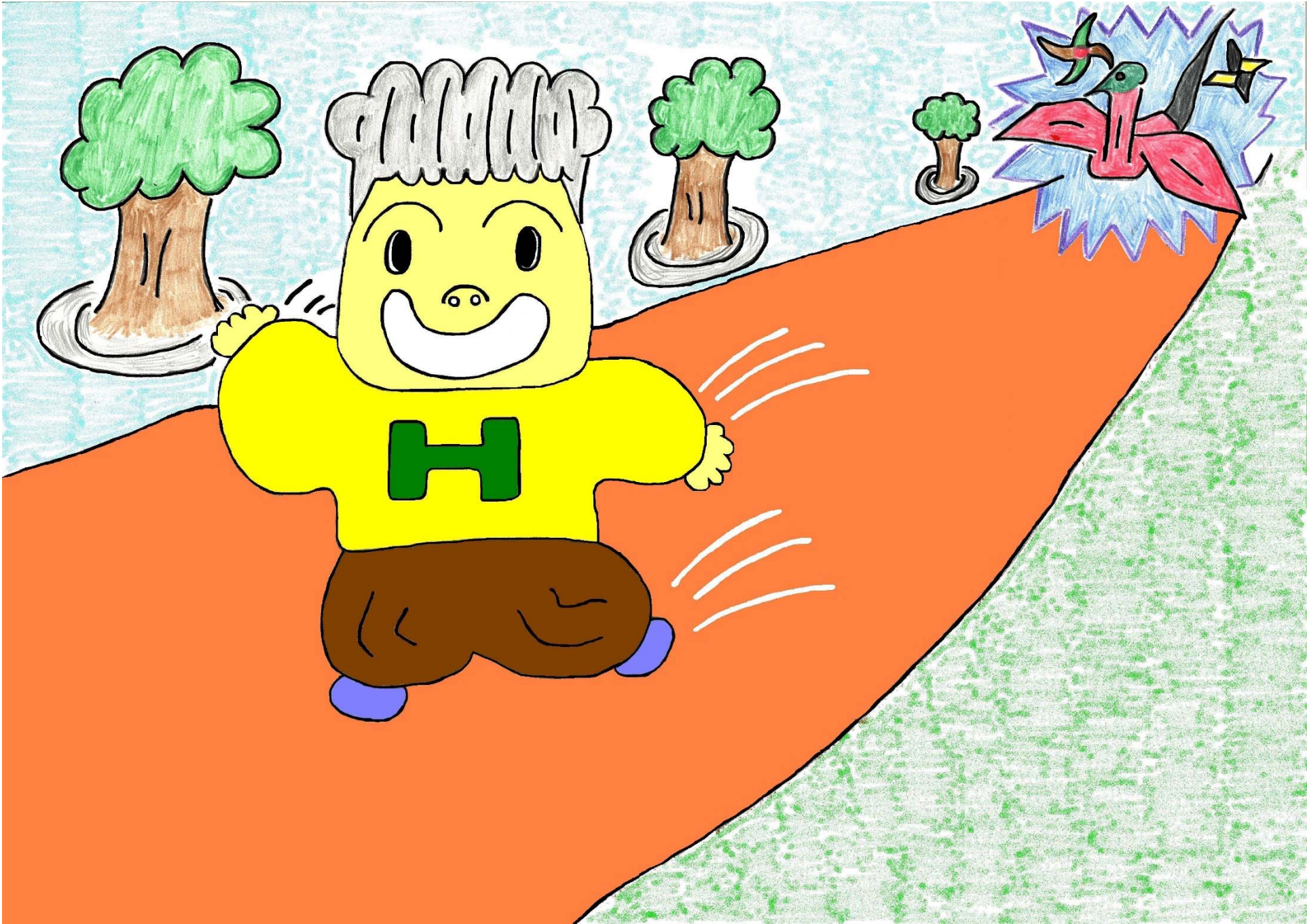
ひろ「いいよくだ。こつち  
こそ、あるかんべくだ」  
けんちゃんとまこちゃんは  
怒って部屋を出て行ってし  
まいました。



ひとりになって退屈に  
なった、ひろくんはだ  
んだん眠くなってきた  
した。

ひろ 「ぐゝすか、ぐゝ  
すか ぴゝひよろろ」

あっという間に夢の  
中!!!

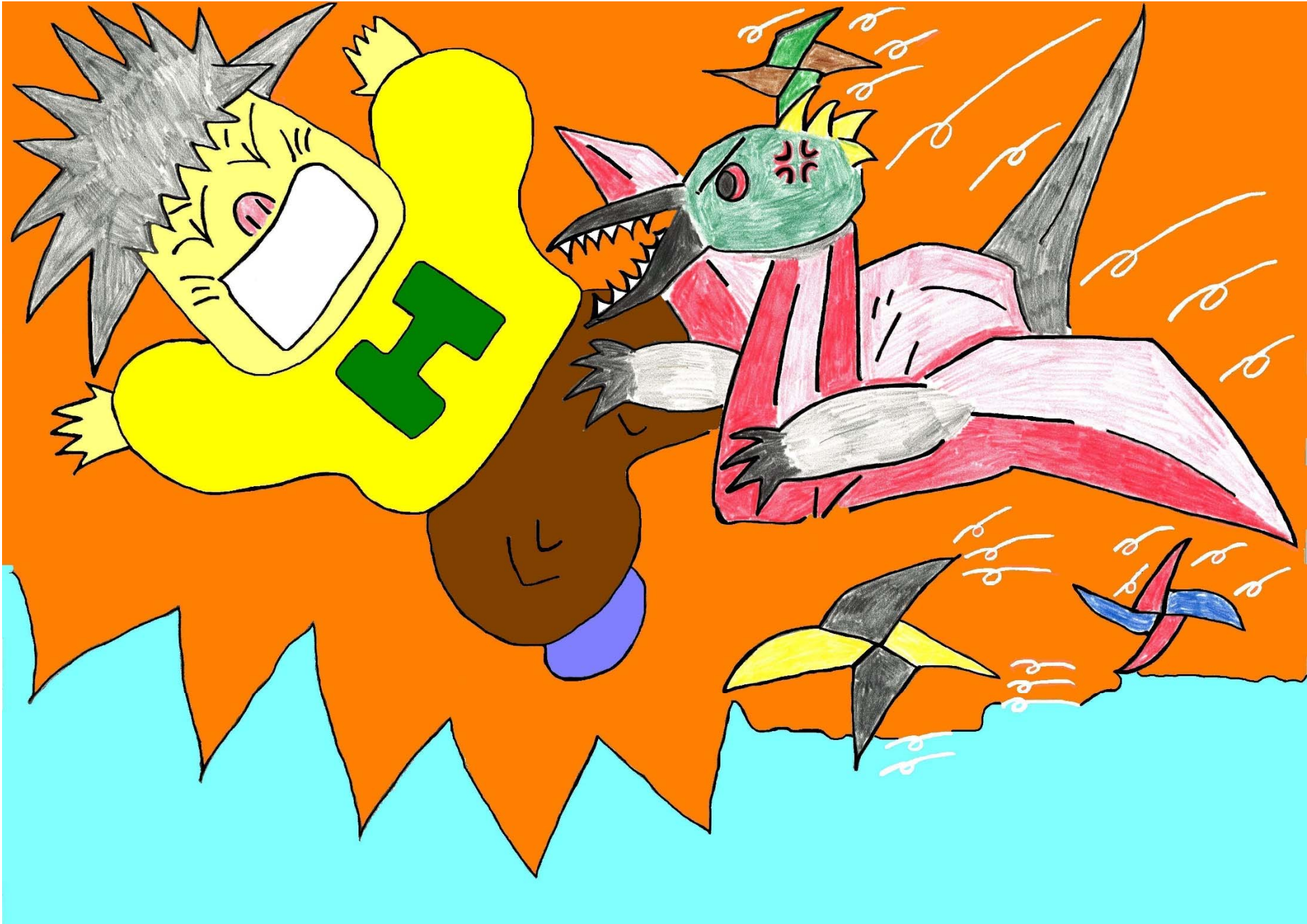


夢の中でひろくんは楽しくお散歩をしていました。

ひろ「お散歩、お散歩、うれしくな♪折り紙な〜んてつまらないぞ〜」

「待て〜待て〜」  
あれ！あれれ！うしろからなにかがひろくんを追いかけteきているぞ

「待て〜こら待て〜」  
よく見ると鶴と手裏剣がものすごい勢いでひろくんめがけて飛んできました。



「こらゝ待てゝ。なんで私たちをゴミ箱に捨ててしまっただら。せつかく作ってくれたんだからもっともっと一緒に遊んでくれてもいいんじゃないかゝ？

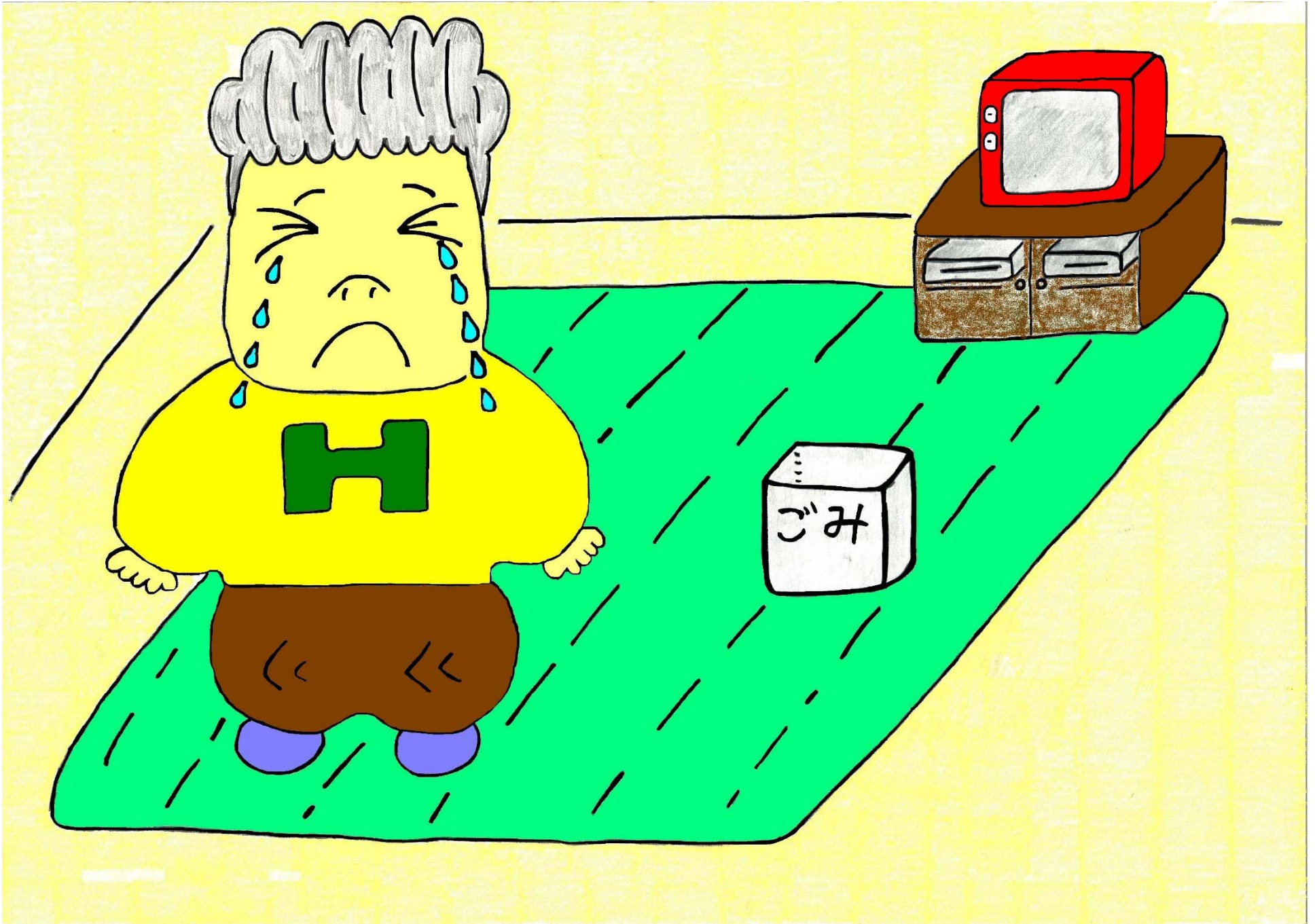
もったいないじゃないかゝ！ゴミ箱に捨てられたら、清掃工場で燃やされちゃうんだぞ！。

遊び終わったら、紙のリサイクルに出してくれれば、新しい紙に生まれ変わって、またみんなのところに戻ってこれるんだぞ。

ひろ「わー！！怖いよゝ助けてくれゝ。わゝ」

「えゝん えゝん」





夢から覚めたひろくん。

ひろ「えくん こわ

かったよ。そうだ！

ゴミ箱から折り紙たち

を出してあげないと」

捨ててしまった折り紙

たちをゴミ箱から

取り出しました。



ごめんなさい

ひろ 「鶴さん、手裏剣さん、  
ほかの折り紙たち、ゴミ箱に  
捨ててしまつて本当に本当に  
ごめんなさい。



ひろ 「けんちゃん、まこちゃん、  
せっかく作った折り紙を捨ててし  
まって本当にごめんなさい」

けん 「いいよ、ひろくん。作った折  
り紙たちと遊ぼうよ！ひろくんにも  
折り紙の折り方をたく

さん教えてあげるね。一緒に折り紙  
しようね。そして遊び終わった  
ら……。」

ひろ 「知ってる知ってる。遊び終  
わったら、ちゃんとリサイクルする  
日に出せば、また新しい紙に生まれ  
変わるんだよね」

けん 「そうだよ、ひろくん」

ひろ 「じゃー、折り紙さんたちも僕  
たちと同じで」

けん・ひろ 「ずっと、ずっと  
お友達だね」



良い子のみなさん、  
遊び終わった折り紙は、  
ゴミ箱に捨てないで、  
ちやくんとリサイクルの日  
に出してね！  
そうすれば  
ずっとずっとお友達で  
いられるからね。  
おしまい